

4 近海マグロ漁業試験

久 貝 一 成

例年春から夏にかけて沖縄近海を回遊するクロマグロを対象として、漁場調査とテラピアの飼料テストを併せて実施した。

1 試験の方法

- 1) 期 間 昭和47年6月19日～6月30日
- 2) 使用船舶 図南丸(159.31トン 400馬力)
- 3) 乗組員 赤嶺正弘船長以下20名
- 4) 使用漁具 釣針5本付 マグロ延縄100～150針
- 5) 釣獲率調査 水温・塩分・胃内容物・卵稚仔調査

2 経過及び結果の概要

1) 総括

天候には恵まれ調査は順調であった。クロマグロの回遊状況については釣獲をみなかったのははっきりしないが、当業船の動き、漁獲状況から判断してよいようである。餌料の比較試験(冷凍サンマと生き餌のテラピア)により、テラピアが生き餌として価値が高いことが分った。テラピアは釣獲あるいは投網により漁獲し、那覇港奥で網生貴と竹籠に生かして出港時に全部網生貴に移してからそのまま引きあげて積み込んで出港した。蓄養中は残飯を時々投与したが蓄養期間10日、船による漁場までの期間1～3日計11～13日経過しても死魚はなく、その生命力は衆知のとおりであり、また操業中でも推定120m(—3番枝)の深さで12時間経って揚縄(約2.6m/secの速度で揚縄)しても生きており、しかも揚がったものを解剖しても内蔵には殆んど異常が認められなかったことからみてもその生きの強さが想像できる。サンマと比較試験をしても遜色なく、むしろテラピアが良い場合もあり、生き餌としての価値は高い。しかしそれ相様に確保できるか、平均した魚体が得られるか(今回使用したものは約600尾で10cm～30cmと不揃いだった。大体15cm内外が良い)、枝縄を揚げる際、サンマと違い餌持ちがよく、また釣針から離脱しにくいいため負担がかかるなどの点が今後の課題である。

クロマグロは時期的に回遊北上したものとみられる。しかし今年のクロマグロは全般に数量(釣獲量)は多く地元漁船の水揚げ状況も5月8日から6月22日までの間に約60尾、大は197kg、小は73kg、平均115kgあった。(例年5～6尾程度しか水揚げされない)価格は1kg当り1000円～130円と大差があるがこれは産卵前と後による脂ののり具合などによるものだろう。キハダ漁はSTによりかなり変動がみられるが、これは群泳する結果だろう。なお操業一覧表及び漁場図は別掲のとおりである。

2) 海況

天候はよかった。格別な変化はみられなかった。表面水温は26.5℃～27.5℃、50m層で23.0℃～26.9℃、100m層で18.8℃～20.8℃、150m層16.8℃～20.0℃、200m層17.3℃

～18.5℃、塩分濃度は、表面が34,444‰～34,939‰、100mで34,540～35,067‰、200mで33,738～35,150‰であった。

3) 漁況

低調で8回操業でキハダが26尾、マカジキ7尾、クロカワカジキ2尾、バシヨウカジキ1尾、サメ57尾、その他6尾で約2トンの水揚げであった。そのうちマグロの多かったのはST7であった。

表1 マグロ・カジキの漁場別・漁獲数量と体長組成

魚種 体長 回数	キハダ							マカジキ					クロカワカジキ				合 計
	100cm 以下	100cm 110cm	111cm 120cm	121cm 130cm	131cm 140cm	141cm 150cm	計	130cm 以下	181cm 140cm	141cm 150cm	151cm 160cm	計	151cm 160cm	161cm 180cm	181cm 190cm	計	
1				1			1尾	1				1尾				1尾	3尾
2				1		1	2尾										2尾
3	2	1		2			5尾										5尾
4						1	1尾			1		1尾					2尾
5					3		3尾										3尾
6				1			1尾			1	1	2尾					3尾
7	2	1	2	4	2	1	12尾	1				1尾					13尾
8					1			1	1			2尾			1	1尾	4尾
計	4	2	2	9	6	3	26尾	3	1	2	1	7尾	1尾	なし	1尾	2尾	35尾

表2 魚種別の漁獲尾数・釣獲率・混獲率

事項 魚種	キハダ	マカジキ	クロカワカジキ	バシヨウカジキ	サメ類	計
尾数	26	7	2	1	57	93
釣獲率%	0.52	0.14	0.04	0.01	1.15	1.89%
混獲率%	27.95	7.52	2.16	1.08	61.29	100%

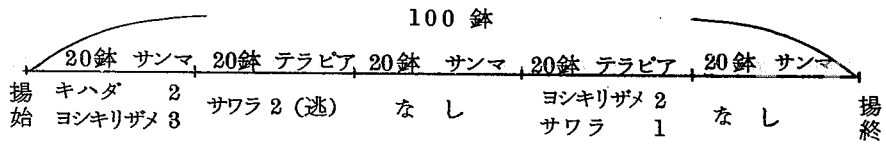
キハダの♀♂の割合は1:3で、♀の熟度はI～IIであった。胃内容物はイカ、カワハギ、サンマ、ティラピアが多かった。

4) 餌料比較試験

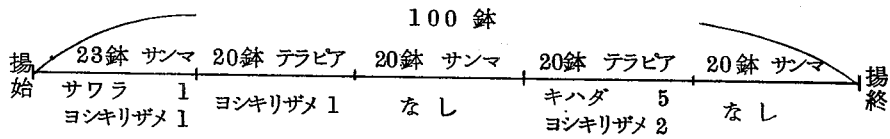
ティラピアは時々沿岸の底延縄などに餌として使われていたが、マグロ用餌としては使われていないので、その生き餌としての価値把握のため試験したがその結果はよかった。

餌の比較試験は ST 2・3・4 の漁場で次のような方法で試験した。

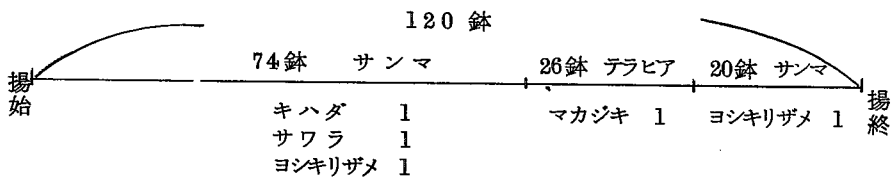
第一回目
ST2



第二回目
ST3



第三回目
ST4



5) 卵稚仔調査

遠洋水産研究所のマグロ調査実施要領にもとずき採集物は当水研に送付した。